

10円で年中無休でUTCが使えるのは魅力である。電話時報をフィルターをつけて取りだし、記録計にほうりこむ。前に説明したアグネスチャンはもう年をとっているのだから、新しいアイドルを作ることにし、光電流と時報を同時にメモリーにとりこむことの出来る回路を製作した。この年、NHKでは福島を舞台にした連続ドラマを作ったが、そこに出てくるオッチョコチャイだけれど身を惜しまず働く主役の名をとってこの装置には“おりん”と命名した。木星衛星食の観測結果は学会にも報告し、天文台の中村さん、相馬さんにもお送りすることが出来た。

8. まとめにならないまとめ

長々と私たちの模索の足どりを書いて見た。多分、理学部や天文台などの人たちから見たら、教育学部というところは何かと前近代的なところなのだろうかと思えるに違いない。金もない、人もない（能力もないとは言わないことにする）こういう所で、細々と星を見ている一群がいるのだということだけは認識していただきたい。

教育学部の学生諸君は、研究者になることは減多にない。大部分は、教壇であくせくと毎日子供たちと苦闘する身になるのである。しかしながら、そういう教師に教えられる子供たちが次代の日本を背負って立つのである。今の知識偏重の社会では、ケプラーの法則の計算が出来、核融合反応の方程式が書ける生徒が進学出来る仕組みになっている。一回も星を見ることなく、下を向いてマークシートの上に●を書くことによって大学の門はくぐれるのである。

私はそれに対していささかの抵抗をしているつもりである。子供たちにこの美しい星空をぜひ見せてやってほ

しい。大自然の不思議さを体験させてやってほしいと願うからこそ、次の時代に教壇に立つ連中に、学生時代に星を見る機会を与えてやりたいのである。私の頭が悪いことを合理化しているといわれそうだけれど、教育学部の学生に天体電磁流体力学の数値実験をやらせたり、恒星大気連続吸収係数と再結合係数を計算させることが決して悪いこととは思わないが、同時に、無心に星を見て、その美しさと運動に感動し、その感激を次の世代の子供たちに伝えることができるような教育もまた必要だと思っているのである。この文章で、私のそういう気持ちがすこしでもわかっていただけたらどうか。

9. 附 記

‘月報’にプライベートなことを書くのは不謹慎といわれそうであるが、小生、家庭の事情でこの三月、福島大学を退職した。

偶然ではあるが、時を同じうして福島大学では最初の節に述べた特設理科教員養成課程を廃止することにした。最近、子供の数が減少し、理科教員需要が減少したからである。

課程の廃止は当然カリキュラムにはね返る。理科課程が廃止されたため、自然科学専門の教官ポストは過剰になる。こうして退職者の後任は補充せずに、他の教科へまわすことになる。私のこれまでのポストも、理科教育学の方で埋めることになった。「天文教育も出来る人」という公募になる筈だが、これまでのように天文学にだけかかり切りになるわけにはいかないだろう。

このように、教育学部という所は、学問体系上の理由よりも人口構成などによって教官組織も左右される弱い所だ、ということも認識していただきたいものである。

お 知 ら せ

昭和62年度(第4回)井上学術賞候補者募集について
井上科学振興財団より本会あて下記要項で推薦依頼がありました。希望者は庶務理事までご連絡下さい。(学会締切りは9月5日(土))

記

1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で業績が特に顕著なもの。ただし、研究者の年齢が昭和62年9月19日現在で満50歳未満のものに限る。

2. 学 術 賞

本賞及び副賞200万円 受賞者は原則として1件について一人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等である

ことを示して下さい。

3. 推薦件数は1件です。

第20回日本アマチュア天文研究発表大会

期 日: 1987年10月10日(土、体育の日)及び同11日(日)の2日間

会 場: 財団法人日本教育会館(東京都千代田区一つ橋 2-6-2) 電話 03-230-2831

地下鉄東西線「竹橋」または「九段下」下車 徒歩5分

研究発表: 申し込みは8月10日(月)まで

参加費: 1,500円

問合せ先: 〒156 東京都世田谷区桜 3-7-11

アマ天東京大会事務局 電話 03-426-0820